

# 内容紹介

(カードの一部を縮小しています)

(防災への備えなど＝裏面)

## ◎備えておきたい防災用具や備蓄品

地震や火事などで、初期消火や、まわりの人を助けたりなどの活動が必要になっておきたいものです

## ◎ボランティア

(まずはラジオ・テレビで情報を得よう)

災害は、発生地域や種類によっても同様です。関係機関の状況や、ボランティアの受け入れ状況などからでもできるボランティアの活動は、物資を送る、災害に応じて、なにが必要

## ◎ライフラインの停止に備える

電気・ガス・水道など、ライフラインの停止は、わたしたちの生活にとって大きな

## ◎万が一のための地震保険

火災保険では地震による損壊や、地震で発生した火災(延焼を含む)による損害に対しては保険金が支払はできません。火災保険とセットで地震保険は被災者の生活は支えていないため、地震は必ずかかるといえます。地震保険は、地震保険に加入する

## ◎避難時の持ち出し品

避難時は、両手を使えるようにしておくこと。平常時から、リュックなどの背負

## ◎知っておくと便利

災害関連の情報収集に関するサイト

(政府関連)

☆津波情報 気象庁

<http://www.jma.go.jp/jp/tsunam>

☆原子力安全保安院 緊急時情報

<http://kinkyu.nisa.go.jp/>

(災害用伝言関連情報)

(災害用伝言)

## ◎家族で話し合っておく

地震に備えて家具を固定し、転倒や落下防止措置をし、ケガや、避難に支障の発生した時の出火防止や初期消火を確認しておくことや、家族が避難場所などを決めておくことも必要

近所との協力体制を話し合



(数字当て＝表面)

1	3	5	7	9	11
13	15	17	19	21	23
25	27	29	31	33	35
37	39	A	41	43	
45	47		49	51	
53	55	57	59	61	63
65	67	69	71	73	75
77	79	81	83	85	87
89	91	93	95	97	99

2	3	6	7	10	11
14	15	18	19	22	23
26	27	30	31	34	35
38	39		42	43	
46	47	B	50	51	
54	55	58	59	62	63
66	67	70	71	74	75
78	79	82	83	86	87
90	91	94	95	98	99

## HOW TO USE

### 使い方

A、B、C、D、E、F、Gのカードには1から100までの数が並んでいます。相手の思う数字(年齢など)があればそれぞれ、「ある」、なければ「ない」と答えてもらいます。「ある」と答えたカードの左上隅の数字の合計が、相手の思う数になります。

【例】年齢60歳の人が相手の場合、「ある」と答えるのは、C、D、E、Fの4枚です。それぞれの左隅の数4+8+16+32=60でピタリ正解です。

この方法で年齢のほか、誕生日、月、日、家族の人数、又はゴルフのハンディなどを当てることができます。家族や職場で楽しんでください。

## HOW TO USE